



たいじゅ

大樹



平成23年度 鹿嶋市立平井中学校 第3学年通信 No.32 平成23年12月2日発行

♪ 進路情報。

今回は、「一般入試」について試験実施後、どのようにして合否を決めるのかを説明致します。

まず、学力検査を採点し、点数順に並べます。同時に各中学校から送られた調査書（いわゆる内申書）を点数化し、同じように点数順に並べます。調査書をどのように点数化するかは、各高校の判断で行います（調査書についてはのちほどの通信で詳しく説明します）。

続いて原則的に合格の者（A群）を決定します。A群は、基本的には学力検査の点数、調査書の点数がともに募集人員の上位80%以内に入った者です。ただし、上位80%に入っているにもかかわらず、学力検査で一つの教科だけ極端に点数が低いとか、調査書の内容に問題がある（欠席が不自然に多いなど）とかの場合には、A群から除外されます。

残りの者をB群とし、B群の中から不足分の合格者を出します。その選抜方法は、この地域では、ほとんどの高校が学力検査の結果で70%、調査書の点数等で30%を選抜することになっています。例外は鹿島灘高校で、50%ずつで選抜しています。

それでは、仮に募集人員が100人の場合をシミュレーションしてみます。



例 募集人員が100人の場合の合格者の決め方

学力検査		調査書		→	合格	人数
順位	氏名	順位	氏名			
1	山下 大	1	山下 大	→	A群	70人
2	河島 蜜義	2	野崎 加代			
3			
79	吉田 慶喜	79	河島 蜜義	→	B群のうち、学力検査の結果で合格	21人
80	成田 幽介	80	成田 幽介			
81	中裏 有紀	81	野々村 義徳	→	B群のうち、調査書の結果で合格	9人
82	野崎 加代			
100	竹内 久美子	→	不合格	9人
101	野々村 義徳	101	吉田 慶喜			
...	...	102	中裏 有紀			
...	...	119	食べ田 正樹	→	不合格	9人
120	食べ田 正樹	120	竹内 久美子			

注：A群は70人、B群のうち学力検査の結果で合格者は21人、調査書の結果で合格者は9人、不合格者は9人（竹内久美子、食べ田正樹）。

募集人員が100人の高校で、学力検査の点数・調査書の点数が両方とも80位以内に入った者が70人いたとします。基本的にこの70人はA群となり、合格です。上の表では、山下くん・河島くん・成田くんです。片方、あるいは両方ともギリギリ80位以内でも、原則的に合格です。

吉田くんは学力検査が上位80位以内でしたが、調査書が上位80位に入れず、野崎さんは調査書がトップクラスでも学力検査が上位80位に入れなかったため、A群に入れません。

残り30人を決める際、そのうち70%の21人を学力検査の結果で決め（吉田くん・中裏さんがこれに該当します）、30%の9人を調査書の結果で決め（野崎さんと野々村くんはこれで合格できました）ます。竹内さんは学力検査だけなら100人に入り、合格できるのですが、調査書が悪かったので残念ながら不合格です。食べ田くんはどちらも最下位に近かったので、不合格です。

以上は、茨城県の公立高校の場合ですが、千葉の公立高校も同じような算出方法です。違いとしては、千葉の公立高校は調査書の結果に一定の数値（『係数K』といいます）を掛け、計算すること。この数値が高校によって異なり、どの程度調査書の結果を勘案するかが高校ごとの裁量に任されているということです。

また、千葉の公立高校は、前期入試が2/6（月）、2/7（火）の2日間にわたって行われ、1日目に学力検査（千葉県では英語に加えて国語でもリスニングがあります）、2日目は高校ごとに面接、作文などの独自の検査を行います。また、前期入試での募集人数を多く設定しています。佐原白楊高校と佐原高校普通科では定員の60%、佐原高校理数科では80%が前期での募集人数です。前期入試で残念ながら不合格だった場合には、後期入試（3/1）で同じ高校を受験するか、他の高校あるいは同じ高校の他の学科（もちろん千葉公立に限定）を受験することが可能です。